

うたは湧くもの兆すもの



日本人の身体知を伝える講演活動
トランスワークが生業

2006年の夏に出会った土取利行と桃山晴衣という二人の偉大な音楽家が主宰する郡上八幡の立光学舎に関西から通い続けていた。大学時代から芸術と芸能のあいだをうろつろしていた自分にとって、「舞台上に立たなくていい、掃除からやれ」といった教えは痛切で爽快だった。そして2010年、私は立光学舎で住み込みの徒弟となり、亡くなった桃山さんから聞いていた郡上の里唄を探し始めた。するとまるで尽きない鉱脈を掘り当てたように、郡上にはいくらでも唄える人がいて、いくらでも唄があった。一方で、「オレは



民謡だけでなく
山伏神楽なども謡い舞う

うたなんか一つもうとうたことがないじゃ。働きどおしでそんなひまなかった」とのつけから言われたこともあった。こちらを見ずに土間で殻から実をとるべくひたすら手を動かし続けているそのオバアの姿に私は二の句も継げなかったが、ウタこそそのうたえぬ者の代弁を含むものだ、いくつもの作業唄のなかで気づかされていった。

では、唄が湧きいづるような状況をどのようにはぐくむことができるのだろうか。2012年から始めたのは「親子わらべうたの会」で、親子で野外を散歩しながら、わらべうたをうたう会だ。同じ頃、白鳥の歌名人、故見付義勝さんに失われゆく祝い唄を習うかたちで結成したのが「郡上放歌」で、今も拝殿踊りなど里唄の継承



奥美濃民謡を唄う郡囃会 GUNSOKAI

を深める会として活動し続けている。2022年から続けているのは郡上八幡の歌名人、故後藤直弘さんが作った「郡囃会」である。郡上以外の各地でも郡上節や祝い唄、踊りの輪を作り出すためのグループだ。古調を中心に、歌だけでも人を踊らせるられるよう稽古やライブを続けている。私たちは一度きりの人生で誰もがいつかは死ぬ。だが、うたが滅ぶことはないことを私たちは知っている。うたは湧くもの兆すもので、手渡しあい、沁み入らせることができる。伝承も生きることそのようにして連鎖していくのだろう。

問 郡囃会（井上博斗）

080・1994・4647

2025 10/10 金

11/29 土

13:30~16:30

郡上八幡ホテル積翠園

最大2万円
交通費・宿泊費
補助金制度あり!!



参加
無料

事前申込
不要

服装
自由

何時に
来ても
OK

入退室
自由

郡上市合同 企業説明会

対象者

転職希望者、U・Iターン希望者、短時間勤務希望者含む
既卒、令和8年3月卒業予定の新規学卒者（高校生・
大学・短大・専門学校等）とその保護者

※令和9年3月卒以降の学生（高校1年生・2年生、
その保護者）も企業研究としてご参加いただけます。

※参加証明書をハローワークブースでお渡しします。
雇用保険受給者の方は求職活動実績1回となります。

参加企業

市内優良企業多数参加!!
参加企業は随時HPにて更新



《お問合せ》郡上市雇用対策協議会 ☎67-1808



あなたらしく働ける

仕事と出会おう